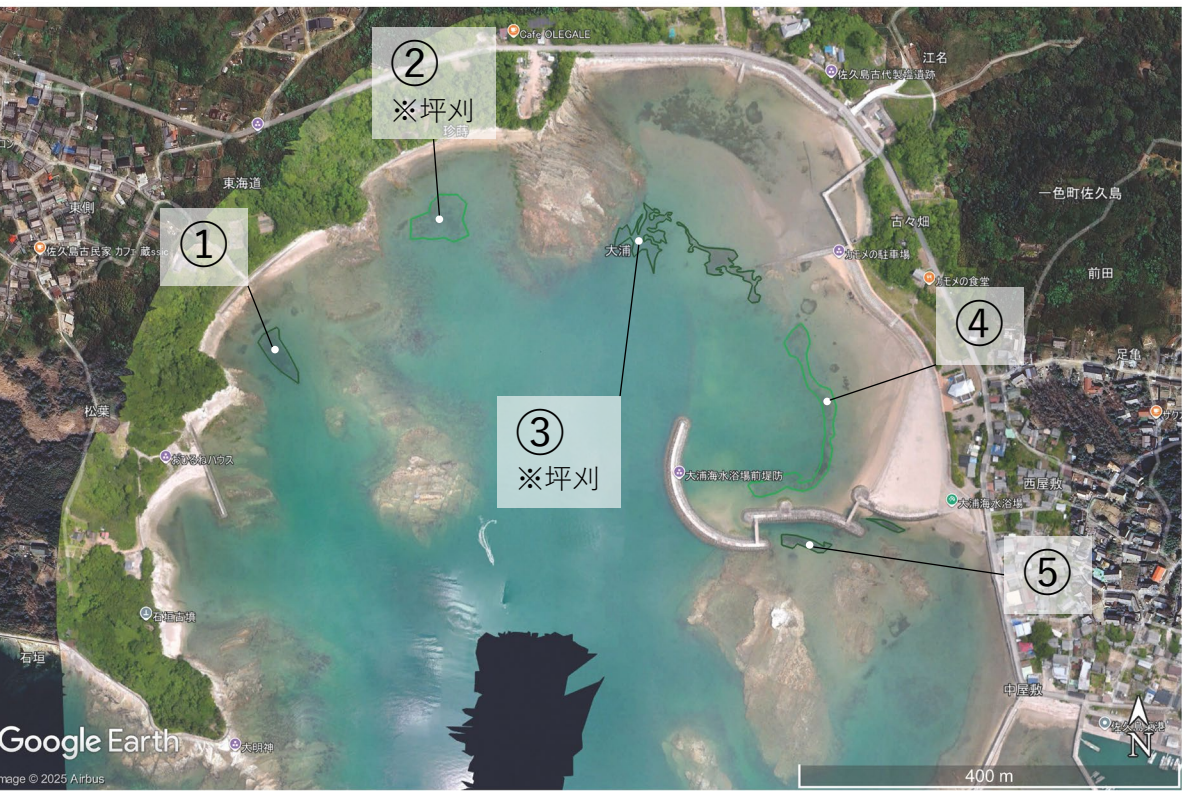


2025年度ブルーカーボン量（アマモ面積）

ドローンによる空中写真撮影（2025年6月6日）
WebODMを用いて空中写真よりオルソ画像を作成
エクスポートしたオルソ画像をGoogleEarthに貼り付け
アマモ場縁辺の判定、ポリゴン作図により面積を算定



凡例		面積(ha)
○	アマモ（被度90%）	0.4281
○	アマモ（被度50%）	0.5112

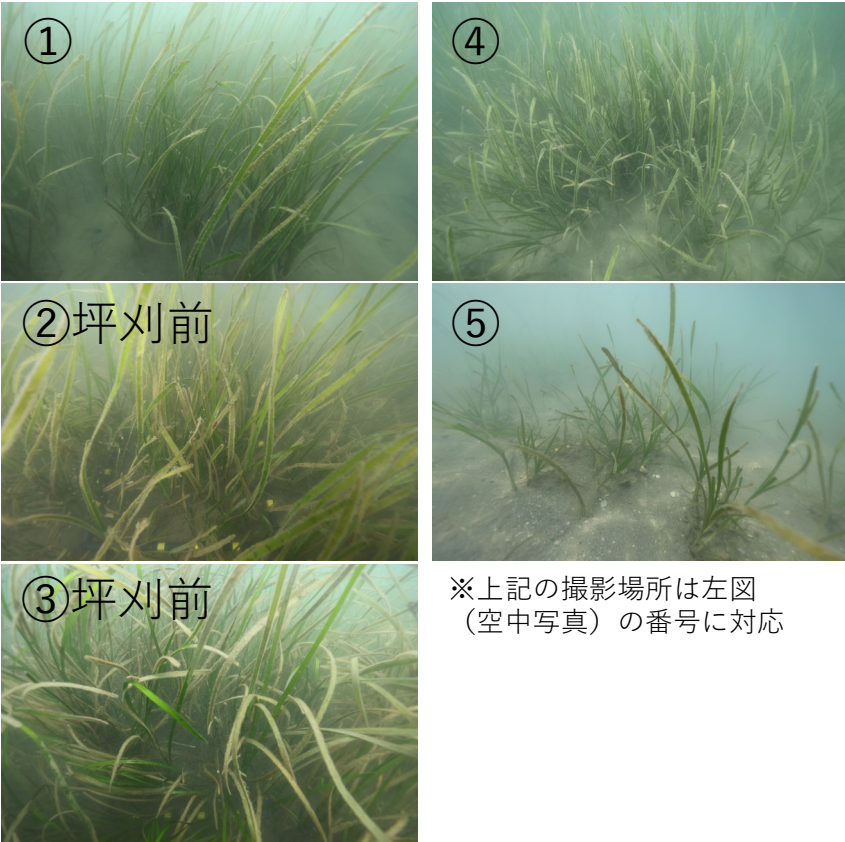
※①-⑤では潜水によりコドラート調査を実施し、被度を記録した。その他、番号が無い場所でも船上や素潜りでアマモの確認と繁茂状況の確認を実施した。

【面積に対する確実性評価について】
対象面積内は水深0.5m-3mまでであるが、算定した対象面積は平面と想定されている。そのため、実際の面積に対して過小評価を行っていることから、面積に対する自己評価を100とする。

アマモ対象面積（実勢面積）＝面積合計×被度
＝0.4281×90%
＝0.38529 ha

アマモ対象面積（実勢面積）＝面積合計×被度
＝0.5112×50%
＝0.2556 ha
合計 0.38529+0.2556＝0.64089 ha

潜水目視調査による生育アマモの把握、
コドラート調査によるの被度の把握、
生育アマモの湿重量計測（2025年6月6日）



生育アマモ：アマモ（面積算定に反映）
被度：アマモ：90.0%、50%（面積算定に反映）
※各地点にてコドラート3枠による被度を記録。

1m2当たりの湿重量 アマモ：平均3.02802 kg

2025年度ブルーカーボン量（アマモ被度）



被度の判別は画像から、アマモ場が濃く密に繁茂すると判読した範囲についてはコドラート調査の結果を基に被度90%とした。

また、アマモ場がパッチ状に繁茂する為、面積の算定がしにくい場所では、生えていない場所も判読範囲に含むため、被度を50%と定義することで実勢面積を算出した。生えていても画像で判別の難しいものや小さいパッチ上で面積に反映しにくいものは除外しているため本来よりも過小評価している。

被度50%と定義した場所でもアマモ草体の生育状況（被度や株数、草体長）は被度90%アマモ草体と大きな違いは見られず、生育している場所における被度は100%であった。



凡例	
●	アマモ（被度90%）
●	アマモ（被度50%）



凡例	
●	アマモ（被度90%）



凡例	
●	アマモ（被度50%）